



人類に  
奉仕する  
ロータリー

2016-2017年度

■会長 中田 幸雄

■幹事 中尾 登志男

例会日: 金曜日12:30-13:30

例会場: ホテルサンルート魚津

## 第3033回例会

- 点鐘・握手
- 君が代斉唱
- ロータリーソング「奉仕の理想」
- 四つのテスト唱和
- ゲスト並びにビジター紹介 なし
- 誕生祝

辻君(4日)

中尾夫人(4日)

佐藤夫人(12日)



65歳になります。この挨拶も上手にならないので、今後お遊びなり酒なり...いろいろな事を教えてください。

■ 会長挨拶\_中田会長



かみさんに何だっけというスマホで調べてくれて助かっています。



最近の話題は孫の話ばかりです。今日は帰って皆様に祝っていただいたことを報告します。



台風の影響がまだまだ続いています。青森など農業でも被害があり、魚津もりんごの時期になるので被害がない事を願っています。西RCと合同でのゴルフ大会を企画したので多数の方の参加をお願いします。女子大学野球の決勝戦で女性の活躍を拝見しました。会員獲得活動もしていますので、皆様に良い報告ができればと思います。お配りした富山県の人口減少の資料ですが、魚津に定住させる取組も必要と考えます。

## ■ PHF 認証書及びバッチ授与



野澤君 3回目です



中田君 三年後に還元されます

## ■ 幹事報告(中尾幹事)



## ●ガバナー事務所より

- ・ロータリーレートのご連絡  
9月レート \$1=102円
- ・公式訪問の御礼
- ・ロータリー財団100周年記念シンポジウム開催のご案内
- ・財団100周年記念 ニコBOXご協力のお願い
- ・地区大会信任状証明書ご提出のお願い
- ・米山梅吉記念館 賛助会ご入会のお願い

## ●埼玉県富士見市資料館友の会 拓本部会より 石碑拓本許可申請書

## ● 9月例会案内

**【基本的教育と識学率向上月間  
/ロータリーの友月間】**

- 9月11日 早朝例会(道の駅)
- 9月16日 会員卓話 愛宕君
- 9月23日 野外例会(青島海岸公園)
- 9月16日 会員卓話 大島君

- 9月SAA補助  
生駒君

## ■ 出席報告(青山委員長)



本日の出席 22名、出席率72.41%

欠席者 10名

3031回メイクアップ

仙丸君、中尾君、野澤君、  
広瀬君、中島君

3031回出席率

72.41%⇒89.65%

## ■ ニコニコボックス(広瀬委員長)

生駒君 今日の卓和宜しく願います。  
広瀬君 秋田に行ってきました。

## ■ 委員会報告

## ●広報委員会

9月はロータリー友の会月間です

# ■ 本日の卓話

## 生駒君

### 『風向計から 元気で働ける喜び』



**元気で働ける喜び** 私は魚津市シルバー人材センターの理事長をさせて頂いています。先月24日に、市内の公園で恒例の「鎌渡し式」があり、本年度の活動が本格的にスタートしました。今年は桜を長く楽しめたという点では良かったのですが、当日はまだ、肌寒さが残るあいにくの日でした。会員の皆さんは、作業服の上に防寒具を羽織って、寒さに耐えながら参加されていました。

シルバー人材センターの本年度の実践目標は「楽しくなければシルバーでない。人生経験豊かな仲間とともに、責任ある仕事と趣味を生かし、生きがい、働きがいを求めて、元気で喜びあふれる人生を楽しもう！」です。

私は会員の皆さんに「元気で働ける喜びを実感し、また、市民の皆さんに喜んでいただけるような仕事をさせて頂くことに感謝を」と呼びかけました。高齢者の方々は素直です。「頑張りますよ」と握手を求めにこられる人もおられました。

これから秋までの約七ヶ月の間には、真夏の炎天下での作業もあります。ひたすら、元気で安全に働いていただきたいと念ずるだけです。

一昨年、非常に気の毒な事故が起きました。女性会員の方が、除草作業を終えて帰宅する途中、道端で休憩されていました。ところが、軽乗用車がこの女性の足の甲をひき、そのまま立ち去ったのです。複雑骨折を負われて、直るまでに長い時間がかかりました。

作業中だけでなく、現場と自宅の行き帰りの事故にも十分に注意していただきたいと思います。安全指導員の方も言うておられましたが、残念ながら、若いときと異なり、俊敏に行動することは大変困難です。

しかし、高齢者の知恵と技術、豊かな人間性は何と言っても国の宝だと思います。“元気印”で病気を寄せ付けず、介護を必要としないシルバーの皆さんには、いつまでも仕事と趣味を持ち続け、楽しい人生を送ってほしいものです。

**積小為大** 平成16年6月のことです。長く勤務させて頂いている会社がちょうど50周年の節目を迎え、わたし自身も古希を迎えたことから、報国感謝の気持ちで二宮金次郎の石像を寄贈させて頂きました。会社には、広々とした庭の花壇に、石像よろも高価な大理石の台座を建立していただき、愛らしい顔立ちの二宮金次郎像が出来上がりました。

石像が完成した朝、社員のみなさんに集ってもらい、石像を建立した思いを話しました。「二宮金次郎の教えの一つに、どんなに荒れた土地でも希望を捨てずに、真心を持って耕し、育てれば、必ず良い結果がでるものだ。人生も同じ。希望と夢を持って歩んでください。小を積んで大を為す。大きいことをしたいと思えば、小さいことも忘れずに・・・」という内容だったと思います。

今はあまり見かけなくなりましたが、昔はこの学校にも金次郎の銅像がありました。嵐の日も雪の日も、ざらざらと太陽が照りつける夏の暑さにもめげず、重そうな薪を背負い、読書続けるあの姿です。しかし、戦時中の軍需物資不足に伴って、家庭の鍋や釜などとともに軍に徴収され、鉄砲の弾になったのです。

かつて栄光出版社発行で三戸岡道夫著の「二宮金次郎の一生」を読み、偉大な金次郎の生涯をしりました。江戸時代末期に農民の子として生まれた金次郎は貧しい少年時代を過ごしましたが、苦勞しながら学び、働いて農地改革などに尽力しました。少年期から晩年に至る生涯を振り返ると、篤農家、思想家であり、商才にたけた実務家、革命的な政治家ともいえます。

金次郎の報徳の教えの核心は以下の3つです。勤勞(よく働く)分度(身分相応に暮らす)推譲(世の中のために尽くす)

時代の変化のスピードが増し、価値観も多様化していますが、この教えは今も色あせることなく、生きるものの指針だと考えます。同時に、こうした政治家がどこかにいないものか、と思う今日この頃です。